

知的障害がある児童生徒を対象とした
遠足（旅行）・集団宿泊的行事に関する研究の動向と課題

立石力斗

Current Trends in Research on School Trips for Children with
Intellectual Disabilities

Rikito Tateishi

Abstract

This study aims to clarify trends and issues in research regarding field school trips for students with intellectual disabilities through a review of previous research.

As a result of the review, it became clear that most of the studies were research studies and considerations unique to education for intellectual disabilities have been revealed.

In the future, there will be a need for research on pre- and post-guidance for school trips and group overnight events.

Keywords : school trips, intellectual disabilities, review

要旨

本研究は、知的障害がある児童生徒を対象とした遠足（旅行）・集団宿泊的行事に関する研究の動向と課題について、先行研究のレビューを通して明らかにするものである。

レビューの結果、先行研究の全てが調査研究であり、修学旅行を対象としていた。知的障害がある児童生徒を対象とした修学旅行において必要な支援や配慮事項等が明らかになった。一方で実践研究がなかったため、今後は、遠足（旅行）・集団宿泊的行事の事前・事後指導に関する研究などが求められる。

キーワード : 遠足・集団宿泊的行事 旅行・集団宿泊的行事 知的障害 レビュー

I. はじめに

修学旅行は、一般的な旅行と異なり、学校などによって主催される集団の宿泊を伴う旅行であり、広い意味での教育旅行に分類される (Nagai & Kashiwagi, 2018 ; Ritchie, 2003)。学校での教育課程において、修学旅行は、学校行事の遠足 (旅行)・集団宿泊的行事⁽¹⁾に含まれる。特別支援学校では、小学校・中学校および高等学校に準ずることとされている (文部科学省 2018a)。

修学旅行は、学校生活の中で楽しい思い出を作ることだけではなく、見聞を広げて児童生徒の健やかな成長を促進することを目的としており、教育的な側面を有している (宮川・小口、2020)。例えば、小学校学習指導要領において、遠足・集団宿泊的行事のねらいと内容について、「自然の中での集団宿泊活動などの平素と異なる生活環境にあつて、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、よりよい人間関係を築くなどの集団生活の在り方や公衆道徳などについての体験を積むことができるようにすること」とされている (文部科学省、2018b)。遠足 (旅行)・集団宿泊的行事は、日常生活を送る学校以外の場所で学習に取り組む、貴重な機会である。

特別支援学校で実施される特別活動においては、特別支援学校独自の項目が 3 つ示されている (文部科学省、2018a)。そのうちの 1 つに、知的障害がある児童生徒への配慮がある。知的障害がある児童生徒を対象とした特別活動の学習を行う場合、個々の児童生徒の知的障害の状態、生活年齢、学習状況および経験を考慮することが重要とされている (文部科学省、2018a)。特別支援学校で行われる遠足 (旅行)・集団宿泊的行事は、個々の児童生徒に合わせて行われることが求められる。

山本 (2022) は、肢体不自由特別支援学校で実施される遠足 (旅行)・集団宿泊的行事に関する研究の動向と課題についてまとめた。しかし、知的障害がある児童生徒を対象とした遠足 (旅行)・集団宿泊的行事に関する研究については、まとめられていない。

そこで本研究では、知的障害がある児童生徒を対象とした遠足 (旅行)・集団宿泊的行事に関する研究を概観するとともに、今後の研究の方向性を探ることを目的とした。

II. 分析対象論文

1. 論文の選定方法

国立情報学研究所の CiNii を用いて論文の検索を行った。検索語は、対象を表す用語と学習内容を表す用語を掛け合わせた。対象を表す用語として「知的障害」「特別支援」「養護学校」の 3 語を用いた。学習内容を表す用語として「遠足」「旅行」「集団宿泊的行事」の 3 語を用いた。これら 3×3 の条件で検索を行った。

検索により収集された論文の表題と抄録を精査し、「学術雑誌に掲載された論文である」「大学等で発刊された紀要等に掲載された論文である」「知的障害がある児童生徒を主たる対象としている」という条件に照らし合わせて、分析対象とする論文を選定した。

2. 論文の選定結果

図1に論文検索のプロセスを示した。まず、CiNiiを用いたデータベース分析を2023年9月12日に行い、54編の論文を選定した。その中で、検索条件間で重複した3編を除外し、51編とした。その後、選定条件に合わない論文を45編除外した。除外した論文として、知的障害がある児童生徒以外を対象としている論文や商業誌に掲載された文献などがあつた。最終的な分析対象論文として6編が選定された。

Ⅲ. 知的障害がある児童生徒を対象とした遠足（旅行）・宿泊的行事の研究動向

本研究で分析対象とした論文は表1の通りである。全ての論文が、修学旅行を取り上げていた。

中岡・武田（2011）は、特別支援学校で行われている修学旅行の実態を把握するための調査研究を行った。特別支援学校（視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱）の高等部を担当する教師を対象にしたアンケートから、参加生徒人数が10人未満であることが多く、引率の教員が多いことや、9割以上の学校が修学旅行先として医療機関の充実を重視していたことを明らかにした。

特別支援学校高等部の保健管理に関する研究として、菅原・芝木（2016）と菅原・芝木（2017）がある。菅原・芝木（2016）は、全国の特別支援学校（肢体不自由・知的障害）に勤務する養護教諭を対象とした調査を行った。修学旅行の行き先として、医療機関の充実を考慮している可能性があること、養護教諭が行う保健指導は、小学校・中学校・高等学校に比べて実施した学校が少ないこと、知的障害特別支援学校では入浴の介助と指導に養護教諭が取り組むことが多く、支援者の人数が不足していることなどが明らかになった。菅原・芝木（2017）は、医療的ケアの実施別による保護者の引率、実施期間、旅行先の医療機関等

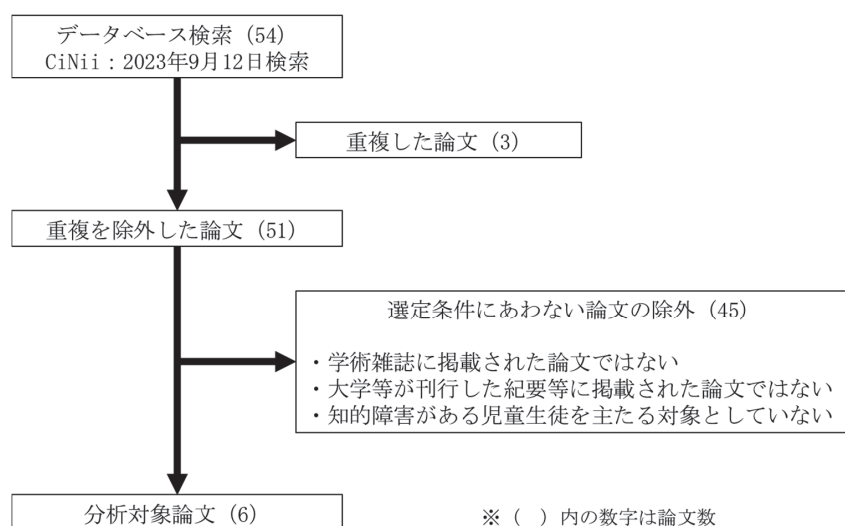


図1 論文検索のプロセス

との連携、事前の保健指導、旅行中の養護教諭の執務などについて明らかにした。

特別支援学校の修学旅行に必要な配慮や支援に関する研究として、松本・安田・櫻井・山内による一連の研究がある（松本・安田・櫻井・山内、2018；松本・安田・櫻井・山内、2019；松本・安田・櫻井・山内、2020）。松本ら（2018）は、岐阜県内の特別支援学校を対象とし、修学旅行の概要や活動内容、配慮事項について調査を行い、修学旅行で最も必要とされていたのは児童生徒の興味・関心や実態に応じた活動となるような配慮であること、移動手段に制約があること、宿泊する部屋に関する条件、アレルギー食への対応などに配慮していることが明らかになった。松本ら（2019）は、修学旅行中に起こった予期せぬトラブルと対応について調査した。その結果、移動時や宿泊時など、様々な場面でトラブルが起きていながらも、引率教師が臨機応変に対応していることが明らかになった。また、調査結果を受けて、移動、宿泊、食事、買い物、見学・体験の5つの場面に対応した『特別支援学校の修学旅行を計画する際のポイント（試案）』を示した。松本ら（2020）は、特別支援学校ならではの困難さとその対応について聞き取り調査を行った。その結果、移動や宿泊の場面での困難さと対応が示された。また、修学旅行当日の場面ではなく、計画段階や事前準備として、旅行者や交通機関に関することや、行程に関すること、事前の打ち合わせに関することが指摘された。

表1 分析対象論文

著者・掲載年	研究の主たる目的
中岡・武田 (2011)	特別支援学校高等部で実施される修学旅行の実態を明らかにする
菅原・芝木 (2016)	特別支援学校（肢体不自由・知的障害）高等部で実施される修学旅行の実施状況を障害種別に調査し、事前準備として必要な物品等や関係機関との連携のあり方について明らかにする
菅原・芝木 (2017)	特別支援学校（肢体不自由・知的障害）高等部で実施される修学旅行における健康管理上の配慮や事前準備、関係機関との連携にあり方について医療的ケアの実施別に明らかにする
松本ら (2018)	特別支援学校小学部・中学部・高等部で実施される修学旅行でどのような配慮や支援が必要とされているかを明らかにする
松本ら (2019)	特別支援学校で実施された修学旅行中に起こったトラブルの内容と対応について明らかにする
松本ら (2020)	『特別支援学校の修学旅行を計画する際のポイント（試案）』（松本ら、2019）の内容を検証する

IV. 考察

1. 知的障害教育における遠足（旅行）・集団宿泊的行事に関する研究の動向

知的障害教育における遠足（旅行）・集団宿泊的行事に関する研究の全てが、修学旅行を対象としていた。また、研究の手法は調査研究であった。先行研究から、特別支援学校ならではの配慮事項や事前準備の必要が指摘されてきた。

第一に、旅程に関わる配慮が挙げられる。調査から、旅行先の医療機関が充実しているかどうか（菅原・芝木、2016；菅原・芝木、2017）や、児童生徒の興味関心を高めることができるかどうか（松本ら、2018）などが重視されていた。これらは、文部科学省（2018a）による、個々の児童生徒の実態に合わせた実施を意識していると考えられる。近年は、障害がある人が旅行を楽しむことができる環境が整備されつつあるが、知的障害等がある人が旅行する際の支援内容や支援方法に関する研究は十分ではない（松本・山内、2015）。そのため、観光地のリソースを活用しながらも、教師が個々の児童生徒に合わせた工夫をしていることが推察される。

また、旅程について児童生徒も教師も事前に把握する必要がある（松本ら、2020）ことが指摘された。片山・片山・古川（2002）は自閉傾向のある小学生の修学旅行に際し、写真を用いたスケジュール表を用いることで、旅程を視覚的にイメージすることができたことを報告した。平岩（2011）は、発達障害のある子どもが標識を手掛かりにしたスケジュールを用いることで、飛行機をスムーズに利用することができたことを報告した。このように、旅程を視覚化し、児童生徒も教師も共通理解を得ることが、知的障害がある児童生徒を対象とした場合でも、有効である可能性がある。

第二に、人的サポートの重要性が挙げられる。本研究で分析対象とした論文は、修学旅行を主な対象としており、公共交通機関等を活用した長距離移動が想定される。そのため、日常的な学校生活とは異なる移動支援が必要となる。また、宿泊が伴う活動を想定した場合、入浴の支援などが必要となる。引率する教師の数が多い（中岡・武田、2011）ながらも、養護教諭が入浴等の支援を行うこともあり（菅原・芝木、2016）、支援体制を構築する必要があることが明らかになっている。

また、旅行中に起こる様々なトラブルについても、教師の臨機応変な対応を行う事例が報告されており（松本ら、2019；松本ら、2020）、安全な修学旅行の実現に向けて、人的なサポートが重要であるといえる。

2. 今後の研究課題

文献の検討から明らかになった課題として、第一に教師を対象とした調査が中心であることが挙げられる。これまでの研究は、知的障害教育における遠足（旅行）・集団宿泊的行事（特に、修学旅行）の実態把握を主たる目的とした研究が中心であった。そのため、活動の概要や教師の視点からみた特徴等を把握することはできるが、児童生徒の観点からの知見は明らかになっていない。遠足（旅行）・集団宿泊的行事に際して、児童生徒の実態にあ

わせて、どのような目標設定がなされているかや、修学旅行でいかなる経験をしているか等を把握する研究が求められる。

第二に、遠足（旅行）・集団宿泊的行事の当日の活動に焦点をあてた研究が中心であることが挙げられる。文部科学省（2018c）は、事前の学習や、事後のまとめや発表などを工夫し、体験したことがより深まるような工夫を求めている。寺本（2016）は、「旅育」の文脈において、旅行後の振り返り（リフレクション）に大切な教育機会が横たわっていることを指摘した。これまで遠足（旅行）・集団宿泊的行事の当日における配慮事項やトラブル等が中心に知見が集約されてきたが、事前・事後学習としてどのような学習を行う必要があるかや、実践例の集積は十分とはいえない。特に、知的障害がある児童生徒を対象とした場合、個々の生徒の学習目標や実態に合わせた対応が求められる。未知の空間への移動が伴う遠足（旅行）・集団宿泊的行事の場合は、日常生活とは異なる支援が必要になる場合が想定される。例えば、村越・山口・松本（2004）は、知的障害に伴って、大規模な空間を包括的に把握する能力が低下するが、実際に経験した空間は内的に構成することができることを指摘した。新規場面への不安が強い児童生徒の場合、未知の空間を事前に把握するために、写真等の情報に加えて、未知の空間を疑似的に体験することができる VR の活用などが想定される。また、寺本（2016）が指摘するように、活動先での体験を想起することができるようなエピソードを提示するなど、旅の認知地図づくりを行う学習が求められる。このような、遠足（旅行）・集団宿泊的行事の当日以外の活動として、どのような指導をする必要があるのか、また、具体的な実践を集積する必要がある。

V. おわりに

本研究では、知的障害教育における遠足（旅行）・集団宿泊的行事に関する研究を概観し、今後の研究の方向性について検討した。知的障害教育に限らず、修学旅行に焦点をあてた研究は非常に少ない（宮川・小口、2020）。知的障害教育に関しては、調査研究が中心であり、一定の知見は得られているものの、限定的である。今後は、知的障害教育における遠足（旅行）・集団宿泊的行事での児童生徒の学びに着目した研究や、事前・事後学習に焦点を当てた研究などが求められる。

註

- (1) 学習指導要領では、小学校は「遠足・集団宿泊的行事」、中学校および高等学校は「旅行・集団宿泊的行事」と記されている。また、特別支援学校は小学校・中学校・高等学校に準ずることになっているため、当該学校種の名称を用いる。本研究においては、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校における「遠足・集団宿泊的行事」および「旅行・集団宿泊的行事」を総称して「遠足（旅行）・集団宿泊的行事」と記した。

付記

本研究は、公益財団法人博報堂教育財団第 18 回児童教育実践についての研究助成を受けて実施された。

参考文献

- 平岩幹男（2011）発達障害を抱える子どもと旅行．小児科，52（4），423-428
- 片山寛美・片山孝司・古川宇一（2002）自閉症のわが子の合同修学旅行－事前旅行とスケジュール表への写真利用－．情緒障害教育研究紀要，21，109-112
- 松本和久・山内達仁（2015）知的障害・発達障害のある人が旅行する際に必要な支援．現代教育学部紀要，7，73-83.
- 松本和久・安田和夫・櫻井康博・山内達仁（2018）特別支援学校の修学旅行に必要な配慮や支援（1）－岐阜県の特別支援学校を対象とした調査から－．岐阜聖徳学園大学教育学部教育実践科学研究センター紀要，17，151-158.
- 松本和久・安田和夫・櫻井康博・山内達仁（2019）特別支援学校の修学旅行に必要な配慮や支援（2）－修学旅行中に起こった予期せぬトラブルとその対応－．岐阜聖徳学園大学教育学部教育実践科学研究センター紀要，18，53-58.
- 松本和久・安田和夫・櫻井康博・山内達仁（2020）特別支援学校の修学旅行に必要な配慮や支援（3）－特別支援学校ならではの困難さとその対応－．岐阜聖徳学園大学教育学部教育実践科学研究センター紀要，19，63-70.
- 宮川えりか・小口孝司（2020）海外修学旅行がもたらす心理的効果－高校生修学旅行者を対象とした質問紙調査から－．日本国際観光学会論文集，27，73-81.
- 文部科学省（2018a）特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部），開隆堂出版株式会社.
- 文部科学省（2018b）小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説特別活動編，東洋館出版社.
- 文部科学省（2018c）中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説特別活動編，東山書房.
- 村越真・山口友介・松本久美（2004）知的障害児の空間認知能力を評価するためのスケッチマップ法と方向指示法の比較．心理学研究，75（4），347-352.
- Nagai, H. & Kashiwagi, S.（2018）Japanese students on educational tourism: Current trends and challenges. In C. Khoo-Lattimore, E. Yang (Eds.) . Asian youth travelers: Perspectives on Asian tourism, Springer, Shingapore, 117-134.
- 中岡良司・武田富美子（2011）特別支援学校の修学旅行の実態とオホーツク地域の受け入れ可能性．日本赤十字北海道看護大学紀要，11，7-12.
- Ritchie, B. W.（2003）Managing Educational Tourism. Clevedon, Channel View Publications, UK.
- 菅原真由美・芝木美沙子（2016）特別支援学校における高等部修学旅行の保健管理（第 1 報）－事前準備と関係機関との連携－．北海道教育大学紀要（教育科学編），66（2），167-180.

- 菅原真由美・芝木美沙子 (2017) 特別支援学校における高等部修学旅行の保健管理 (第 2 報)
ー医療的ケア実施の有無ー. 北海道教育大学紀要 (教育科学編), 67 (2), 173-184.
- 寺本潔 (2016) 旅育と観光ホスピタリティ教育. 寺本潔・澤達大 (編著), 観光教育への招待ー社会科から地域人材育成までー. ミネルヴァ書房, 3-6.
- 山本和雄 (2022) 肢体不自由特別支援学校の遠足 (旅行)・集団宿泊的行事に関する研究の概観と展望. 創価大学大学院紀要, 43, 123-132.